

学校教育目標	<b>かしく やさしく たくましい子どもの育成</b> ～自分だいすき 友だちだいすき ふるさと原だいすき～	経営理念	児童・保護者そして地域との信頼関係を基盤とし、地域の一員としての自覚と誇りを持ち、グローバル社会を生きる児童を育成する。 (1)児童が、自らの目標に向けて仲間とともに伸び高め合う学校 (2)教職員が、お互いの職能を伸ばし合い、協働して組織力を発揮する学校 (3)保護者・地域とともに歩み、信頼され貢献する学校
--------	---	------	---

評価計画						自己評価				学校関係者評価		改善方針		
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方針
							10月	2月						
確かな学力	1	学力の向上を図る。	基礎学力の向上を図る。	・「わかる、できる」授業づくりの工夫と改善を行う。 ・定着時間を確保する。	国語科・算数科単元テストの平均点が85点以上	100%	国語科 86.3点 算数科 83.7点	国語科 87.2点 算数科 83.6点	85%	2	国語科では、達成値を上回ったが、算数科では、達成値を上回ることができなかった。国語科においては、読書の時間、ステップタイムでの漢字の練習、本校の研究で「国語科」を取り組んで着けてきた成果と考へる。算数科では、学年が上がることによって平均点が下がっていく傾向があるから、算数の学習内容の定着が課題である。「わかる、できる」授業づくりの工夫と改善について、学校全体で課題意識を持ち、取り組む必要がある。	B	目標近くに達成していると思います。学年が進むにつれてそれまでの積み上げが大切になると思います。	○これから児童が主体的に学習に取り組む学級づくり、授業づくりを行う。
				・ステップタイムにおいて、計算や漢字学習を継続して行う。 ・学年に応じた読書の年間目標を設定し、達成に向けて、司書や図書ボランティアと連携し、読書活動の充実を図る。	標準学力調査における国語科・算数科の偏差値が51以上	100%	国語科 50.3 算数科 48.5	96%	3	単元テストとは異なり、範囲が広いこと、基礎だけでなく活用問題があることから、テストの形式に慣れるために、全学年・休み明けの課題として取り組んだり、児童が学習する確かな時間を確保し、自覚・自信には届かなかった。標準学力調査の基礎・基本での全体的な傾向として、国語科では、漢字の読み書きの定着が課題があり、算数科では、高学年の学習内容の定着が課題であった。今後、ステップタイムでは、計算力を着けることにおき、漢字の定着は、授業で確実に身に付けていくようにしていく。	A	目標近くに達しているのよいと思います。	○学力の定着を図るために、児童自身に目標をもたせ、時間を有効に活用してステップ学習・このはタイム・タブレット学習を継続し、「個別最適な学び」を充実していくようにする。	
				・国語科における話し合い活動において、話す・聞く活動の工夫を行う。 ・聞く活動に特化した学習を取り入れ、全学年で学習するようにする。	標準学力調査における国語科話し合いの内容を取り組む問題(中学年)話し合いの内容を取り組む問題(高学年)全学年の平均 80点以上	100%	学校平均 75.0点 (全国平均) 71.8	93.8%	3	○標準学力調査(全国通達率) 1年生66.9(66.5)点 2年生84.2(79.0)点 3年生95.2(82.2)点 4年生65.6(63.4)点 5年生76.7(70.5)点 6年生61.7(69.7)点 目標の80点には達していないが、全国平均は上回っている。授業や朝の問答ゲームを通して、話す聞く学習を継続的に取り入れていく。	A	全体的に児童アンケート結果が向上していて、成果が現れていると思います。	○「話す・聞く、話し合う」学習の指導方法の開発ができたが、引き続き話し切らせる・聞き切らせるための指導方法の充実を図りたい。加えて、算数科・総合的な学習の時間の研究に取り組む。	
豊かな心・たくましい体	2	豊かな心を育てる。健康で安全な生活習慣を育てる。	毎日の学校生活を楽しく送る児童を育てる。	・児童会、委員会活動、学級活動を充実させることにより、児童相互の望ましい人間関係を組織する。 ・日常的な縦割り班の活動を計画・実践し、高学年にリーダーとしての自信を持たせる。 ・配慮を要する児童について、定期的に情報を共有し、組織的に対応をする。	児童アンケート「自分にはよいところがある。」「自分には相談できる友達・先生・家族がいる。」「学校は楽しい。」「縦割り班活動で自分の役割を果たしている。」「4項目について肯定的な回答をする児童の割合(年度当初より8%の向上)」	+8%	4項目平均 3.7% 下降	年度当初より4項目平均 4.3% 上昇	53%	1	第3回目の「ふだん思っていることアンケート」を2月に行った。肯定的評価をした児童は、4項目の平均値は91.4%であった。10月の結果と比較すると、3.5%上昇した。肯定的評価をした児童の割合は「自分にはよいところがある」は86.2%「相談できる人」は93.3%「学校は楽しい」は93.3%「縦割り班活動で役割を果たしている」は99.4%であった。目標値は第1目のアンケートより8%上昇であったので達成目標できなかった。しかし、4項目ともに肯定的評価が高いので楽しく学校生活を送る児童は多いと考えられる。	B	10月から2月にかけて肯定的な評価が増え、効果がみられていると思います。登下校時の子どもたちを時折見かけますが、みんな笑顔で楽しそうです。	○児童自身が納得できる具体的な肯定的評価を、全教職員が意識して実施していると思います。引き続き自己肯定感の向上・醸成をめざして取り組みを推進していく。また、表彰するなどして意欲を高めることを継続する。
			体力の向上を図る。	・体育科授業の充実を図る。(スモールステップを大切に授業づくりの工夫) ・外遊び、運動遊びを奨励する。(外遊びのヒントとなる特別活動と運動したイベントの企画・開催)	新体力テストの男女学年別で、全国平均値を上回る項目(96項目中48項目以上)	100%	96項目中65項目上回る	135%	4	新体力テストの結果落ち込んだ50m走と上体起こしについては、長期休暇を利用した体づくりを取り組んだ。運動や遊びの紹介が「元気アッププログラム」を配り、体力づくりカードを利用して取り組んだ。児童の中にはまだ運動を好きでなく、自分の目標を決めてそれを目標とした運動を組み入れて取り組んでいた。コロナ禍で難しいことはたくさんあるが、児童が楽しんでできる体づくりの紹介をしなが、体力向上を目指した取り組みをこれからも続けていきたい。	A	全国平均より上回っていることは評価できます。	○ロング屋体験の実施を継続し、外遊びをしっかり奨励する。	
			運動することが楽しいと感じる児童を育てる。	児童アンケート「運動することが楽しい」「体育の時間に精一杯体を動かしている」「体育の時間に精一杯体を動かしている」「体育で学習したことを休み時間や放課後に試したり練習したりしている」の3項目について肯定的な回答をする児童の割合(年度当初より10%の向上)	+10%	年度当初より10%上昇	100%	3	「運動することが楽しい」「体育の時間に精一杯体を動かしている」と答えた児童がともに90%以上であった。そこで「体育で学習したことを休み時間や放課後に試したり練習したりしている」に絞って取り組みを行った。放課後や休日に練習するよう、縄跳びカードや冬休みに体力アッププログラムを配布した。時間を見つけて、配布したものを参考に運動に取り組んだり、体育で学習したことをみんなできたりという活動が10%上昇したと考える。	A	日頃から先生方が改善に努めているからだと思います。広い校区を徒歩で登下校するだけでも良い運動になっていると思われます。	○校内体育指導・実技講習を行い、さらなる体育科指導の充実を図りたい。		
信頼される学校	3	保護者・地域との連携を図る。	学校に対する保護者・地域の方の満足度を向上させる。	・真摯で素早い対応、連携に努め、信頼される学校づくりに努める。 ・学校便り、学年通信、HPの内容の充実を図る。 ・学校行事を通して、地域の方や保護者との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する。	保護者アンケートを12月に実施し前年度と比較90%以上の項目を増加させる。	90%	18項目中12項目	109%	4	18項目中12項目(+1項目)で90%を超える肯定的回答であった。特に「子どもさんは楽しく学校に通っている。」「に対しては、95%以上の肯定的回答であった。否定的回答が多い「東広島スタンダード」については「あいさつ・返事」等、生活目標に設定して取り組んでいく。「読書」についても「図書まつり」を開催するなど本への興味や書くような機会を設けるとともに環境整備を充実させていきたい。今後も、真摯で素早い対応に努め、信頼される学校づくりに取り組むようにする。	A	年々達成度は上がっています。あいさつは子供たちはできていると感じます。地域イベントも中止となることなく、地域とのかかわりを保つことをこれからもがんばってきたい。	○引き続き「凡事徹底～事前の一策・事後の百策」を意識し、迅速で丁寧な対応に努める。「報告・連絡・相談」も確実に。○主役は児童一人ひとりということを肝に銘じ、きめ細やかな教育活動を今後も推進する。	
			働き方改革を推進する。	時間外勤務時間の月平均60時間未満の職員の割合を90%以上にする。	時間外勤務時間月平均値	90%	84.6%	92.3%	102.5%	3	啓発活動を継続する。また、業務改善に努める。	A	概ね評価します。	○「健康第一」を合言葉に、業務改善を継続する。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項目「1」「2」「3」で表示する。

- 自己評価  
 4...目標を上回って達成(105%以上達成) 3...目標どおりに達成(95%以上～105%未満)  
 2...目標をやや下回って達成(80%～95%未満) 1...目標をかなり下回って達成(80%未満)

- 学校関係者評価  
 A...とても適切である B...概ね適切である  
 C...あまり適切でない D...全く適切でない (N...判定できない)